

まとめ

岬町の介護サービスを取り巻く地域特性として、要支援 1 及び 2 の介護サービス利用が非常に多く、特に通所サービス（介護予防通所リハビリテーション）の高い利用傾向がある。一方で、特別養護老人ホームの入所要件の一つである要介護 3 以上の認定率や施設サービスの利用率も大阪府や全国平均、他市と比べても高齢化率のわりには低い数値となっている。以上を踏まえると積極的に介護保険サービスを利用することや、在宅サービスの充実が重度化防止に繋がっているものと考えられる。

しかしながら、介護保険サービスに依存している現状は決して良い状況とは言えないため、やはり介護保険サービスに頼らない介護予防や在宅医療介護連携等の事業の一体的な実施による地域リハビリテーション連携体制を構築していく必要性を感じている。

具体的には、介護サービスと健康意識の高い方が参加する各種教室の間を埋めるような事業を実施し介護予防事業の層をより厚くしていくことや、介護予防を目的としつつも運動に拘らず、高齢者が気軽に集まれ、その中で趣味活動の延長となるような住民主体の通いの場を創設していきたい。理想を言えば徒歩圏内に創設したいところである。

また、高齢者夫婦の割合、独居高齢者の割合も岬町は全国平均や大阪府と比べても高いことから、「支援が必要でも助けを求められない世帯」や「助けを求めない世帯」も水面下で増加してくる懸念がある。今後はこのような世帯をできる限り早く把握し、対応する取り組みが求められると思われ、潜在的要支援者の早期発見・早期対応の実現を目指し、地域での見守り活動の取組を再構築する必要性を感じている。